



## 手間を重ねて“強度”を増す 家具皮革の工程

塗装された革を、工場内に張り巡らされた棒にかけて乾燥させる。塗装機は家具用皮革ならではの大きなサイズを使用する。

メルセン

長野県飯田市松川町 2211

一般的に家具用の革に求められることといえば、面積が大きく、耐久性、摩擦性に強いこと。そのために一体どのような工夫をしているのだろうか。長年、家具用の皮革製造に携わってきたメルセン工場長、酒井さんにお話を伺った。

「家具には面積が大きい成牛の革を使用しています。摩擦性や耐久性は塗装を重ねることでつきます。その際注意するのは、面積の大きい革に、ムラなく均一に塗ることです」

そう言って案内してくれた工場内です。目に飛び込んできたのは、巨大な塗装機。牛の丸革を通せるほどの大きさは、家具の皮革製造工場ならではだ。

「家具の塗装には、屈曲や摩擦に強い、樹脂入りの塗料を複数重ねていきます」

重ね塗りした革を一日乾かした後、最終塗装をする。

「さらに摩擦性を増すために塗装します。また家具は日に当たる場所に置かれる場合もあるので、日光で変色しない、耐光性に優れた塗料を使用します」

繰り返し職人が手をかけることで増していく『強度』。この手間によって、快適な革との暮らしが作り出されているのだ。

1) 真空乾燥の工程。50度の鉄板に革を挟み真空状態にすることで、水が蒸発して2分間で乾く。プレスによって表面が均一になり、ツヤが出る。2) 網張り乾燥の工程では、革の周囲をクリップでつまみ、引き伸ばしながら乾燥させる。職人ならではの素早い動きで、一日200枚程をこなす。3) 乾燥後、ゴムでできた伸縮性のある機械に革を挟み、さらに伸ばす。



3



2



1